

2024年春闘
頑張ろう

航空連ニュース

航空労組連絡会
大田区羽田 5-11-4 フェニックスビル
Tel 03-3742-3251
Fax 03-5737-7819
No.1048 (38-6) 2024年2月24日

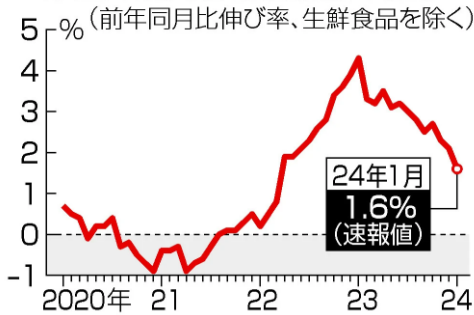
大幅な賃上げで失われた30年取り戻そう

24 春闘は追い風春闘と言われていますが、これまで「失われた 30 年」と言われる中で、私たちの賃金は 30 年間で 64 万円も落ち込んでおり、ここ 10 年でも年間 24 万円落ち込んでいます。また、欧米との比較では日本の賃金の伸びが世界に見劣りし続けています。24 闘は、政府財界が賃上げをとアドバルーンを上げていますが、これまで切り下げられてきた賃金を大幅に引き上げるべく、労働組合自らの取り組みが必要です。また、航空の安全運航を支えていくためにも勤務改善、人員不足解消など積極的に取り組んでいくことが求められています。

物価高騰で生活はさらに厳しさ増す

2023 年の全国消費者物価指数は前年比 3.1% 上昇し、41 年ぶりの高い伸びとなっています。また、1 月の東京都区部の消費者物価指数は生成食料品を除く総合指数は 105.8 となり、前年同月比より 1.6% 上がり、伸び幅は 3 ヶ月連続縮小しました。しかし、生鮮食料品を除く食料は前年同月より 5.7% 上がっています。また、2 月以降に予定されている食品の値上げは 195 社で 1626 品目とされています。電力大手 9 社とガス全社は 2 月の電気料金を引き上げると発表しています。

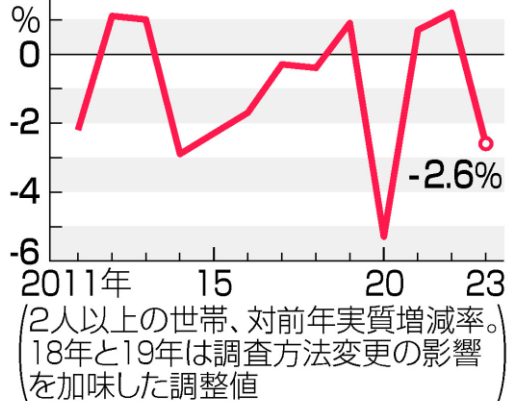
都区部消費者物価指数の推移



上がらない賃金で購買力も低下

こうした状況の中で 2023 年の 2 人以上世帯の月平均消費支出は 29 万 3997 円で、前年比 2.6% 減となりました。また、23 年 12 月の消費支出は 32 万 9518 円となり、実質で前年同月比 2.5% 減少しました。

消費支出の年間推移



主な食品の価格改定(2月)

社名	商品名	改定額	価格上昇率
江崎グリコ	Bigフッチンプリン	167円 → 178円	
カンロ	ピュレグミレモン	149円 → 162円	
理研ビタミン	ふえるわかめちゃん 鳴門	356円 → 394円	
エバラ食品工業	フチッと鍋 寄せ鍋	302円 → 346円	
伊藤園	充実野菜 緑黄色野菜ミックスなど 51品	4.8~15.8%	
カゴメ	カゴメトマトケチャップ など147品	6.2~16.4%	

(注) 業務用除く。価格上昇率は出荷価格などの改定率。改定額は税込みの希望小売価格や参考小売価格など

2人以上世帯 23年調査

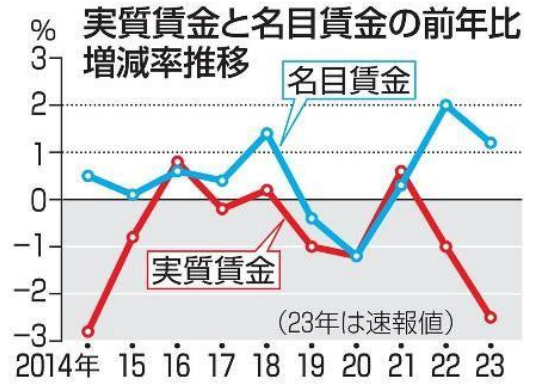
2023年の 品目別支出増減率	魚介類	-8.3%
	パン	-3.6%
	調理食品	-3.8%
	乳製品	-8.2%
	外食	11.6%
	※2人以上世帯で実質の前年比。総務省の資料による	

物価上昇にも追いつかない賃金

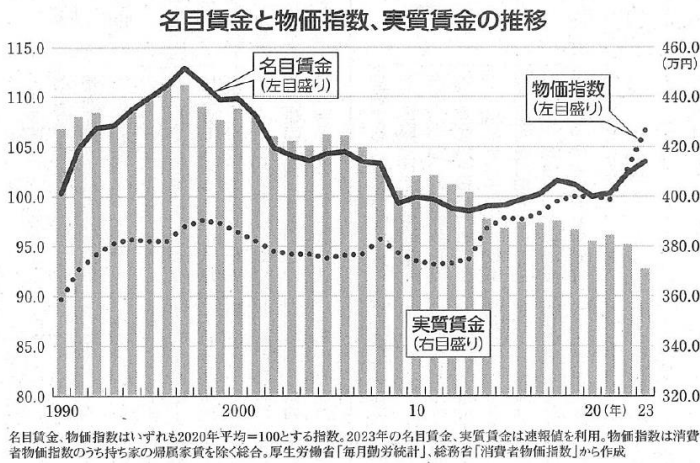
労働組合の主体的取組で改善を

2023年の一人当たりの賃金は物価変動を考慮した実質賃金が前年比2.5%減少しました。

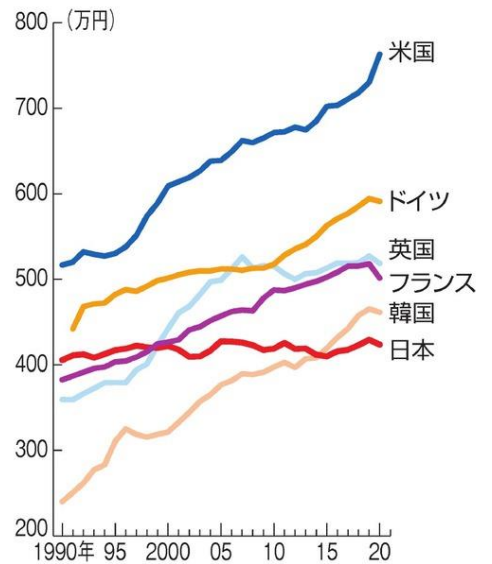
また、23年12月の実質賃金は前年同月比で1.9%減り、21ヵ月連続マイナスとなりました。23年の春季労使交渉では30年ぶりの高い賃上げ率となりましたが、基本給を上げるベースアップ水準は物価上昇に追いついていません。これまで切り下げられてきた賃金の回復と大幅なベースアップが必要です。



実質賃金、1996年より74万円減



主要国の平均賃金(年収)の推移 OECD調べ



全日空と日本航空増収増益 賃金・勤務・人員増答える体力はある

全日空、日本航空の24年第三四半期は顕著な回復により増収増益となっています。また、24年3月期の見通しも過去最高益となると予測しています。

全日空			日本航空	
第3四半期	24年3月期見通し		第3四半期	24年3月期見通し
1兆5435億円	2兆300億円	売上高	1兆2493億円	1兆6840億円
1兆3334億円		営業費用	1兆1296億円	1兆3400億円
2101億円	1900億円	営業損益	1289億円(EBIT)	1300億円(EBIT)
2071億円	1900億円	経常利益		
1489億円	1300億円	純利益	858億円	800億円

24年第三四半期期決算(2024年4月~12月)・24年3月期見通し

全日空は、国際線旅客・国内線旅客ともに好調に推移し、売上高は1兆5435億円で営業利益は2.1倍の過去最高となり2101億円、純利益1489億円となっています。また、24年3月の連結業績予想について、営業利益を前期に比べ58%の1900億円を見込んでいます。

日本航空は、国際旅客は、旺盛なインバウンド需要に加え、米国=中国間を含む乗り継ぎ旅客の積極的な取り込みにより旅客数は前年比約1.8倍となり、売上高は1兆2493億円(前年同期比24.2%

増)で営業利益(EBIT)1289億円、純利益858億円となっています。また、24年3月の連結業績予想については、営業利益(EBIT)1300億円を見込んでいます。

このように全日空、日本航空には、私たちの要求に十分にこたえる体力はあります。24春闘では、各労組で満額回答を引き出すためにも、職場からの創意工夫した取り組みを強化していくことが大切です。

以上